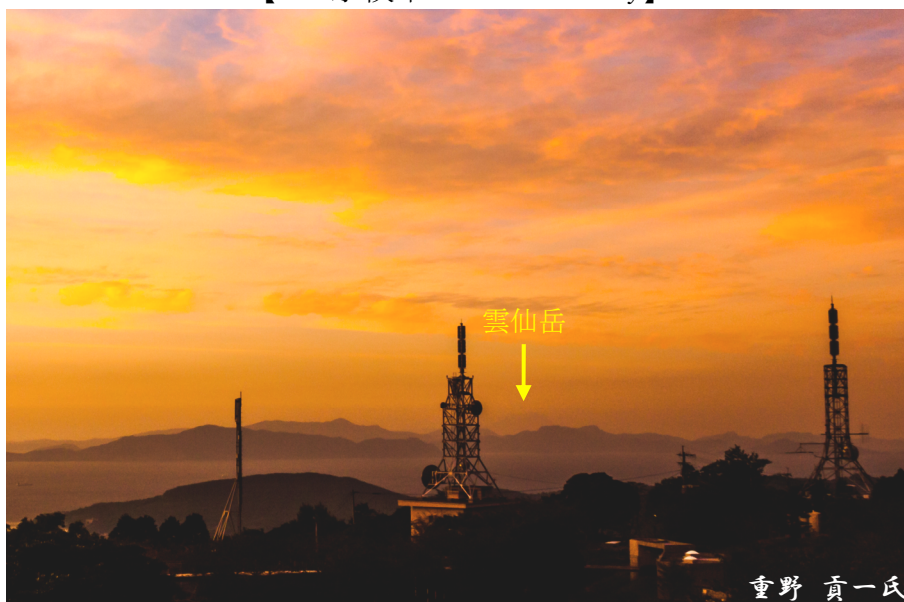


【16 水俣市 Minamata City】



中尾山展望台から

水俣市では、空気が澄んでいれば、湯の児温泉をはじめ八代海沿岸部、高台のスペイン村や中尾山展望台、南側県境の矢筈岳や亀嶺(きれい)峠などから、八代海・天草上島越しに“[南面の雲仙岳](#)”が眺望できます。

展望の良い亀嶺峠からは、空気が非常に澄んでいれば、北には[阿蘇山](#)、東には霧島連山、南には桜島、西には雲仙岳が眺望でき、九州を旅した江戸後期の多才な知識人・頼山陽(漢学者、歴史・文学・美術など多方面で活躍)は、この絶景を漢詩に歌っています。また、このように亀嶺峠からは[阿蘇山](#)・雲仙岳の両方を眺望できるため、[両山](#)の間の歴史的な[大三角形](#)(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

中世の戦国時代、[雲仙岳そびえる島原半島](#)の領主・有馬氏が、佐賀の龍造寺氏に北から攻め込まれて窮地に陥った際、有馬氏から薩摩の島津氏に援軍の要請があり、南方から援軍を送って龍造寺氏を打ち破り、有馬氏が存続できたという歴史がありますが、この際、島津軍に水俣の川上左京という若い武将が従軍していました。当時の水俣は薩摩領で、援軍は水俣に集結して袋湾から軍船で出陣しましたが、左京の妻は、夫を恋しく思う心を抑え切れず、小舟で水俣湾に浮かぶ小島に渡って石室にこもり、海辺に石を積み上げながら、島原半島における夫の武運を神仏に祈り続けました。左京が敵の総大将を討ち取って勝利に貢献し、水俣に戻ってきた時には妻は既にこの世を去った後で、その小島が現在の“恋路島”である、との伝説が残されています。

水俣が生んだ著名人と言えば、明治～昭和に活躍した徳富蘇峰・蘆花兄弟ですが、徳富氏はもともと江戸時代の肥後細川藩の郷士で、江戸初期に発生した島原・天草一揆の鎮圧軍に参加し、その戦功により水俣郷に領地を得たと言われます。兄の蘇峰は思想家でジャーナリスト、文豪さらには書家であり、その雅号のとおり、[阿蘇山](#)に特別な思いを抱いて大観峰の名付け親ともなっていますが、雲仙岳への関心も並々ならぬものがあります。有明海をはさんで金峰山と雲仙岳を対比させた詩“金峰雲仙”を詠んだり、雲仙地獄におけるキリシタン殉教にまつわる“聖火燃ゆの碑”(生田蝶介の詩を彫刻した碑)の題字や、仁田峠に立つ大智禅師(中世の曹洞宗の名僧)の雲仙岳を歌った漢詩の碑の題字を執筆したりしています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、水俣市内を旅してみませんか？

●水俣市の観光情報はこちら ⇒ 水俣市経済観光課 <http://go-minamata.jp/>



中尾山展望台から(拡大)